

平成25年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
長岡大樹	芸術文化学部 助教		60 万円
研究課題名	富山県の民家と杢内造り(ワクノウチヅクリ)		
研究の概要	[研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入] 対象は富山県の歴史的民家である。富山県平野部の農家の特徴は「杢内造り(ワクノウチヅクリ)」とよばれる民家構造・民家意匠である。杢内造りは広間とよばれる主室の堅牢な骨組のことである。天井部では断面の大きな梁を井桁に組み重ね、鴨居の高さでは指物が隣り合う柱どうしを緊結する。この堅牢な構造体は露出しており広間の室内意匠でもある。杢内造りの部材の構成は成立当初からこれまで概ね踏襲されてきた。どの家の杢内造も一見すると同じ印象である。しかしよく観察してみると家ごとに規模や部材寸法、木材の種類が異なる。つまりそのばらつきや偏差が杢内造りの表現となっている。実測調査と文献調査で得たデータをもとに、その表現の特徴と時代的傾向、家の格式(家格)との関連性を検証する。		
研究の成果	[研究成果について具体的に記入] ●現存する民家の実測調査および文献調査を実施。18 世紀中頃から 19 世紀末に建設された約 45 件の農家を分析対象として抽出。次の項目を比較検討した。○建設年代 ○家格 ○建物方位(向き) ○広間の平面規模と寸法、その設計方法 ○座敷・土間の平面規模と寸法、その設計方法 ○広間の柱配列、大黒柱の太さと材長、柱の太さとその分布 ○広間の内法高 ○指物の高さ ○広間の天井高 ○天井架構の構成と部材の本数・太さ・仕上げ ○天井素材 ○床の仕上げと高さ ○基礎 ○広間の付加要素 ○使用木材の種類 ○付樋端の有無とちょうなの使用。 ●判明したのは、各項目の表現に何段階かの目安があること(たとえば一間の取り方は長短四種類程、大黒柱の太さは五種類程)、杢内造り部分の平面寸法は特殊な決め方がなされていることなどである。各項目の目安となる寸法や作り方を組み合わせて、多様な杢内造りが創出されていた。時代が新しいものほど、また家格が高いほど、大規模化・豪壮化の傾向がみてとれた。本研究によって、富山県の民家の地方色である「杢内造り」の詳細な内容を初めて明らかとなった。		
研究成果発表状況	[雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ, 産業財産権(特許権等)の出願・取得状況について記入] 学会論文(発表)「越中の民家と杢内造り」、日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)、平成 25(2013)年 8 月 pp.291-292、において研究の途中経過を発表。		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	物品費	454,123 円	
	旅費	141,850 円	
	通信運搬費	1,965 円	
	資料複写代	2,062 円	